



メトロン星人と地球侵略

昭和世代の私にとってテレビに映るヒーローは憧れそのものでした。特に「ウルトラセブン」は、テレビの前で手に汗握りながら正座して見たものです（共感してくれる人…いますよね？）。

その「ウルトラシリーズ」には個性豊かな怪獣たちが登場します。この怪獣たち、見た目もさることながら地球を侵略する手段も実に多様です。その中の1人？（と言って良いのかどうか…）メトロン星人は、人間同士の「信頼感」に目を付けます。地球人が互いに信頼して社会を成り立たせていることに目をつけ、「他人が敵に見える幻覚」でお互いの信頼関係を奪おうと目論むのです。しかし、アジトのアパートを突き止められ、追い詰められたメトロン星人は主人公に自らの陰謀を語ります（どういうわけかちゃぶ台をはさんで対峙。なかなかコミカルです）。「地球を壊滅させるのに暴力を振るう必要はない。人間同士の信頼感をなくせばいい。人間たちは互いに敵視し傷付け合い、やがて自滅していく」。

社会を支えている基盤は互いの信頼感—との考察は実に示唆に富んでいます。

メトロン星人は、ウルトラセブンの必殺技エメリウム光線によって謀略もろとも撃破されるのですが、現実社会の諸課題を乗り越えるのはそう簡単ではありません。こうした問題をすぐに解決する“必殺技”は現実には存在しません。互いに信頼し、尊敬し合う社会を築くには長きに渡る不断的努力が必要となります。

長い2学期は、子どもたちの人間関係がギクシャクしてトラブルが起こりがちになります。トラブルを起こさないことも大切ですが、トラブルを通して「自分とは異なる人の考えや行動」—「差異」を学ぶことも事実です。そして、そういうイザコザを通して、「自分とは違う他人でも信用できる」という実感を持たせることが大切になります。信頼感という社会を支えている基盤を子どもたちに育むためには、学校と家庭と地域の不断的努力が必要となります。

お互いにしっかりと取り組んでいきましょう。メトロン星人に侵略されないためにも…。



著作権の問題でメトロン星人を自分で描きました。

校長 澤田 章

1年生 連絡帳を書くのはもうバッチリです。



2年生 フィリピン料理づくりに挑戦。たくさんの方が手伝いに来てくださりました。



3年生 係活動について、グループごとに相談中。



4年生 本の魅力を伝える、本の帯づくりに取り組んでいます。



6年生 自分たちが調べた江戸幕府の政治について、発表しながら学びを深めています。



<臨海に行って ~みんなを楽しませる5年生の姿~>

5年生の臨海学舎「全力で楽しもう」を合言葉に、笑顔いっぱいの臨海になりました。誰もが誰に対しても心やさしく、誰かの頑張りをみんなが応援してくれる、そんな素晴らしい姿を5年生はたくさん見せてくれました。みんなが最後「楽しかった」という感想が持てたのは、カヌーやいかだ、キャンプファイヤーというものではなく、臨海に関わった人、とりわけ5年生の子どもたちが、5年生の子どもたちを楽しませたのだと思います。これからの毎日の学校も、海がなくてもきっと「楽しい」ものにできると思います。

